



夕  
草  
上

5  
4657  
1

7



門 八 5  
號 4657  
卷 1



追慕詩

昭和十六年一月十一日寄  
尼野貴英氏贈

かきつゝてはなはなと  
夕雲の如くはなはなと  
風情を思ふはなはなと  
あせふ身は風細くはなはなと  
とらふ心は雲の如くはなはなと  
かくはなはなと  
かきつゝてはなはなと



北校希同宗更其名哲を仰へしと五世  
の侍従水々つとむとり出立りの他方と切隊  
隊度切つたり社務の御行より入れば  
此骨髄を流らばしるは八寸ぬそち直指  
血脈のお侍りして今中真にぬのそ社と  
りりたるしとやくと十三回の名辰よしてふ  
ぬとて追善の金式を御説いてしるは御説を

後くくつたりて御説を述べてしるは  
やうやく豊の御世の説を思ひ出れしと  
えよかたり侍りぬそちとてふとてか  
事とてしるは

まゝ書き梅通  
御説







葦花の如く降りし 雪野

松葉の如く降りし 松葉

山の上の如く降りし 山

湖の如く降りし 湖

山の上の如く降りし 山

湖の如く降りし 湖

山の上の如く降りし 山

湖の如く降りし 湖

山の上の如く降りし 山

湖の如く降りし 湖

山の上の如く降りし 山

湖の如く降りし 湖

山の上の如く降りし 山

湖の如く降りし 湖

山の上の如く降りし 山

湖の如く降りし 湖

葦花の如く降りし 雪野

松葉の如く降りし 松葉

山の上の如く降りし 山

湖の如く降りし 湖

山の上の如く降りし 山

湖の如く降りし 湖

山の上の如く降りし 山

湖の如く降りし 湖

山の上の如く降りし 山

湖の如く降りし 湖

山の上の如く降りし 山

湖の如く降りし 湖

山の上の如く降りし 山

湖の如く降りし 湖

山の上の如く降りし 山

湖の如く降りし 湖



絶るまふ天神傳の下路の村 糸魚

大年の口よりくまふ 鈴ヶ巻 乐的

層そそく之てきせら 投つけ乳 柳高

ほく巻く 麦をまめあくる言 常叶

りう込ておふふ志持の末 杜麻村 也然

花の葉もまもりのと形 莖美

ふらふらとておさの月もえん 伝年 礪山

おつと白ひれ 骨しきく子 純口

そまのの口よりあけハ 秋くれて 自若

せあみあふせとこ 栄年あふく 世岐

折くや ぬのく月ま 唐河原 昔的

美巾れ、しちより 海音の歌の末 兼全

右一順中略

ふるりくむのまゝれ きこり 有養

おくくあふく 塔の仰き 執筆

平向名文畧

月あつては枝——はらけは年忘る如  
 枝通  
 田向まゝの物か父あふ——やあむを  
 枝月  
 何見ても志こころこころ——花の作  
 杜若  
 ほくくくと見えり川せも華あふ  
 芳英  
 又一面氣色も川せもつる  
 存令  
 山ふやは夕暮のあふか——さ  
 ころを  
 今よふとこころあふもや——さ  
 世波

おどけや法のむらう茶の藝  
 若松  
 昔あをむらうのまなむ日可如  
 月影  
 山あつては月あふ——さほろろ  
 百葉  
 すくすくもまゝやま向のあふり水  
 葉子  
 鳴むらうとれまら——峰の雪  
 松水  
 りふ橋めと鳴——葉の草花中  
 第位  
 おもひゆれりもあふく——まの石  
 葉美  
 霧の中山へ満る會ふく如  
 一侍

ちりちりも白くしうしぬぬのこ 市耕  
 志のゆるくも水くも花や一つ種 香川  
 年向多ふ草汁りし水の流生 昔十  
 思居せ茶く光々海きとり 右斗表  
 をよれハ草大さし 木蓮七 柳株  
 又あけく茶の葉へよりうをり 必象  
 ともるむくく 花し茶のかけ 春英  
 小茶を白くむくの葉下りぬ 月坡

今日をゆく宛や虫くもむく 艾園  
 今もあふ茶く 雲霧 佛うぬ 漢衣  
 ありてあけく 梅多れく 一握の雲 松五  
 りふくもハ 法のむくもむくも 聖鶴  
 名くく 此茶をよるのむく 石巻  
 ありてあけく 茶よあけく 枝のむく 三節  
 海よりあふるふの 陰多や茶 文海  
 ありてあけく 海あり 法のむく 多象







あつはしききむひや葉北苗アフリミ 轡和  
氣色しれむのまじひとやまきり 子容  
年くくうまのまじり増あなる中 芋文

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

陸路花きし吟

作はくしふきくくく 葉の義くね 飛池  
あつはしききの 義おしとやねの中 孤柳  
稿書やまき 又飛く 葉はくく 雲岸  
法書やまきの 葉書おの ころしり 号的  
くくむひや 葉の葉 向ふ葉の上 松島  
時子や葉の口敷を ねさしり 家市  
石梅く ぼてるしり くる葉 起燈  
まきくまきの 内まきく けり 鳴り 虚書













浮きのハ草新く——まきあまうね 菜園  
 門細れ去犯白小川春可 那 樽出  
 不きききあ根うう今ん急火うね 於波雄  
 雪の口や眼けハま心 弁産の底 東宇  
 ふとり梅を巻て 寄係ふはは水 霧行  
 かけろふの眼く 別後うそはは 梅笠  
 何とまのく門きり 産——天の川 雪當  
 幾とくしり梅く 晴也やありふ 不二庵  
 舞とくしり明せハ 産むうらうね 子園

篝火のちくそあう勢の力うね 板橋  
 出と力よおされ縁もや 之上山 ヲハリ 石  
 葉比ちくそや 産くまうけの 砂ほちう 一法  
 鯉魚や流く 是中丸 花の底 梅裡  
 雪とあうく かくく 蒼—— 枝うね 半庵  
 水とあうく 水鳥 くるそあうひりり 茨坡  
 流のる 月のふちうらも 又く 下降 碑石  
 川亭れ 船氣つてむ 小家かね 半庵  
 昔ふまき 梅くハ 梅折くぬ 菖小 五橋

秋の夜も 涼しくも 月影も 静かに  
 葉の影も 木々の影も 水の流れも 静かに  
 夕暮の光も 木々の影も 水の流れも 静かに  
 葉の影も 木々の影も 水の流れも 静かに  
 川の流れも 木々の影も 水の流れも 静かに  
 くまの影も 木々の影も 水の流れも 静かに

帆の影も 川の流れも 水の流れも 静かに  
 清い水も 木々の影も 水の流れも 静かに  
 川の流れも 木々の影も 水の流れも 静かに  
 おはまの影も 木々の影も 水の流れも 静かに  
 帆の影も 川の流れも 水の流れも 静かに  
 くまの影も 木々の影も 水の流れも 静かに  
 夕暮の影も 木々の影も 水の流れも 静かに  
 葉の影も 木々の影も 水の流れも 静かに  
 川の流れも 木々の影も 水の流れも 静かに  
 くまの影も 木々の影も 水の流れも 静かに



うらふみく山をたのしむ 禊うね 又ふ  
 寺くや 候年一ふめく 雲の月 得菴  
 卯午や 世々かく 浅瓦をく 丁知  
 言ふく 蕪も ちうめ 秋北風 年郎  
 何とぞい せうい ふとや あふの風 夫雪  
 家らむい いふく ちうめ 西言  
 明ねとく 木の根よ ちうめ 石後 等裁  
 山はれ 伝とく ちうめ 葎の菴 主着

志川 新や 雲をちれく 固れ了 志 卜早  
 岩とく あくちも 月れを 香うれ ちうめ  
 ちうめ ちうめ 涼一 や言をれく 茶古  
 ちうめ や 秋の日後く 桐の葉 首丸  
 卯午の ちうめ ちうめ ちうめ 交 等葉  
 隈の ちうめ ちうめ ちうめ 月 抱儀  
 翁 ちうめ や ちうめ ちうめ ちうめ 仲 交ぬ  
 言とく ちうめ ちうめ ちうめ 西 其家  
 翁 ちうめ ちうめ ちうめ ちうめ 其瓶





以入花をよそするに 池の波 文也

うほきり 菟 赤のしきぬ 茶生 言高

得るつりしきり さつと 候る 糖の 名所 石梁

鳩も 好ふ 下り 花 楳 花 齋

耳高 障の 事々 能く 心ゆく けりて 丹加

白い そつ けられ 玉れ 玉う あり 市 齋

人丸を 屏ゆ けりて ありて ありて 草 齋

虫の 毒う ありて 毒う ありて 皎 月

叫て 炭や 入 入 後 地 候 子 齋

とまや けりて ありて 鴨の けりて 毛 玉 齋

こゝろ 割 度 の ありて ありて 紀 紫 石

るの 障 甲や 海を 垂りて ありて 庚 月

おきて 月の 出 の ありて ありて 四 許

一籠 ありて ありて ありて ありて 菫 齋

工ま した ありて ありて ありて ありて 木 化

候る ありて ありて ありて ありて 松 齋

ありて ありて ありて ありて ありて 心 齋

ありて ありて ありて ありて ありて 嘴 月

古々のまゝ 讀 上流 八の巻 礪山  
春の海へ 如り 健れ 如く 云友

知く 上流 十山路の山 如り 虎按

山く やー 如く 一 如く 其化

剣 如く 水く 如く 如く 其 其 其

如く 如く 如く 如く 如く 如く

如く 如く 如く 如く 如く 如く

如く 如く 如く 如く 如く 如く

如く 如く 如く 如く 如く 如く

如く 如く 如く 如く 如く 如く

如く 如く 如く 如く 如く 如く

如く 如く 如く 如く 如く 如く

如く 如く 如く 如く 如く 如く

如く 如く 如く 如く 如く 如く

如く 如く 如く 如く 如く 如く

移も解を去りしむる初。くは  
 金一の言 押ふ言うまの心路。か  
 晴きの世して又みる 鶴可南  
 一曲をそとておとし  
 家あり 船あり 七尺印松魚  
 芙蓉々々して月夜や梅を  
 次くは 是、あはれをり 燭の紙  
 燈の光を 夢よお月や 花れを  
 伝 紙子 夢的 心あり うれしく  
 静嘉  
 九琴  
 志中  
 藤橋  
 比合  
 雨吟  
 琴心  
 遠光  
 業取

晴きの世して又みる 鶴可南  
 一曲をそとておとし  
 家あり 船あり 七尺印松魚  
 芙蓉々々して月夜や梅を  
 次くは 是、あはれをり 燭の紙  
 燈の光を 夢よお月や 花れを  
 伝 紙子 夢的 心あり うれしく  
 静嘉  
 九琴  
 志中  
 藤橋  
 比合  
 雨吟  
 琴心  
 遠光  
 業取





